

2004年12月X日

XXXXXX 御中

第6回 IEEE 広島支部学生シンポジウム (HISS) 終了のご報告

第6回 HISS 実行委員会
実行委員長 山田 洋明
IEEE 広島支部
支部長 角南 英夫

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より当シンポジウムに格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

去る2004年12月4日、5日の二日間に亘り、第6回 IEEE 広島支部学生シンポジウム (HISS)を予定通り開催いたしました。シンポジウム当日は、例年以上に多くの研究発表が行われ、一般の方も多数ご来場いただきました。別紙にシンポジウム当日の開催内容について、記載しておりますので、こちらも合わせてご確認いただければ幸いです。以上をもちまして、第6回 HISS の終了報告とさせていただきます。当シンポジウムに対しまして貴社よりご後援いただき、シンポジウムを無事終了できましたことを実行委員一同心より感謝申し上げます。

略式ながら書中にてお礼申し上げます。ご自愛のほどお祈り致します。

敬具

<別紙> 第6回 IEEE 広島支部学生シンポジウム(HISS) 実施内容

1. シンポジウムプログラム

・12月4日(土)

土曜日	AM	11:30	開場
		12:30	開会式
		13:00	
	PM	13:00	基調講演
		14:30	
			休憩
		15:00	テクニカルプレゼンテーション A / 研究室展示
		17:30	

・12月5日(日)

日曜日	AM	9:00	開場
		9:30	テクニカルプレゼンテーション B / 研究室展示 高校生体験講座(～13:45)
		11:45	
			昼休憩
	PM	12:45	パネルディスカッション
		14:45	
			休憩
		15:00	閉会式
		15:30	

2. 開催場所

テクノアークしまね(島根県松江市北陵町)

3. 参加人数

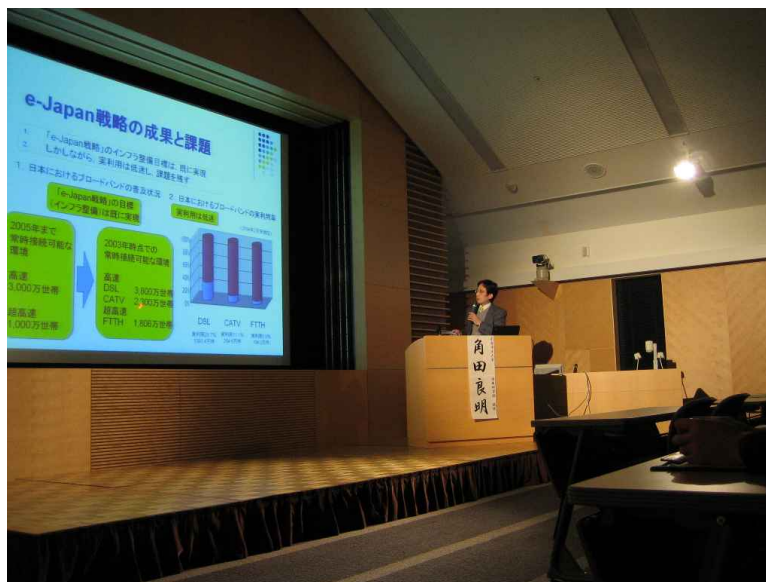
両日合わせて延べ400名

4. 実施内容

4.1 基調講演(12月4日 13:00～14:30)

「ユビキタスネットワーク社会の実現を目指して」と題して、広島市立大学情報科学部 角田良明教授をお招きし、ご講演いただいた。代表的なユビキタス技術であるアドホックネットワークや電子タグの例を具体的に示していただき、さらに“いつでもどこでも誰でも”コミュニケーションできるユビキタスネットワーク社会(u-Japan)の実現のために必

要な技術について説明していただき、さらに講演された角田先生が現在研究を行っているアドホックネットワーク技術の動向と研究成果を紹介された（写真1）。



<写真1> ご講演いただいた角田先生

基調講演には、82名の方が聴講され、当初用意していた座席数を超える聴講者数となった。講演後の質疑応答では、電子タグに関連した質問が出るなど、活発な意見交換も行われた（写真2）。



<写真2> 基調講演の様子

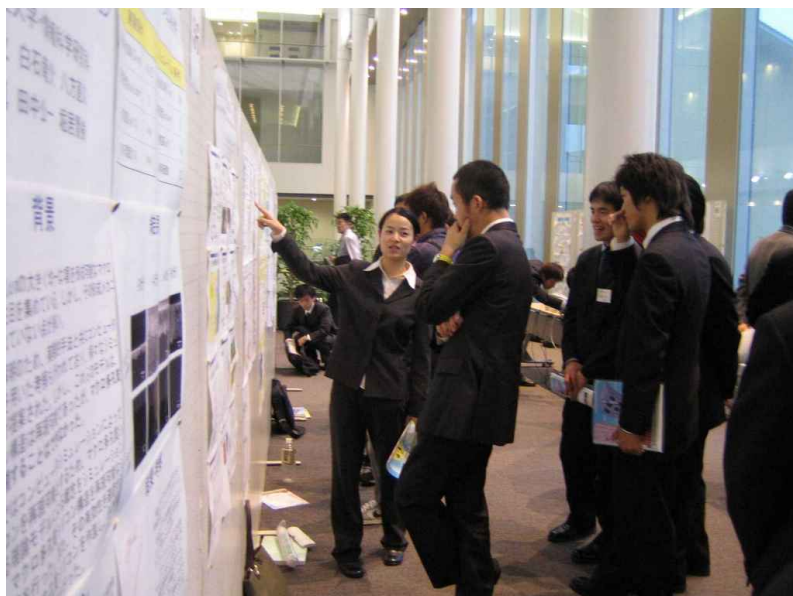
4.2 テクニカルプレゼンテーション A・B

(12月4日 15:00~17:30 / 12月5日 9:30~11:45)

テクニカルプレゼンテーションでは、両日合わせて HISS で過去最多となる 145 件の発表が行われた(写真 3)。ポスターで発表された投稿者の方だけでなく、一般の方も多数来場され、発表だけでなくそれに対する質問も熱心に行われた(写真 4)。



<写真 3> テクニカルプレゼンテーション会場



<写真 4> テクニカルプレゼンテーションの様子

4.3 研究室展示

(12月4日 15:00~17:30 / 12月5日 9:30~11:45)

研究室展示は、両日合わせて14研究室が参加された(写真5)。研究によって得られた成果や現在行っている研究内容について、実際に使用している機器や作成した装置を展示し、来場者の方に体験していただいた(写真6)。



<写真5> 研究室展示会場



<写真6> 研究室展示の様子

4.4 パネルディスカッション（12月5日 12：45～14：45）

「ネットワーク社会で守るべきもの」をテーマとした。5名のパネリストをお迎えし、近年のネットワーク社会で守るべきものや課題について各先生からお話いただき、それについてパネルディスカッションに参加していただいた参加者の方からの意見を交えて議論を行った（写真7）。

パネルディスカッションには、78名の方が参加され、熱心に先生方のお話に耳を傾けていた（写真8）。



オーガナイザ
越智貢教授（広島大学）
パネリスト
吉田純教授（京都大学）
パネリスト
山井成良助教授（岡山大学）
学生パネリスト
中川裕士（広島市立大学）
学生パネリスト
安川幸宏（岡山大学）

<写真7> パネリスト



<写真8> パネルディスカッションの様子

4.5 高校生体験講座（12月5日 9：30～14：00）

高校生を対象にした講座をテクノアークしまね内の島根県産業技術センターで行った。高校生は、事前に募集し20名の参加者となった。島根県産業技術センター内の見学や電子顕微鏡による試料の観察（写真9）、CADによるモデル作成体験（写真10）、光造形システムの見学などを2グループに分けて、体験していただいた。光造形システムで作成された樹脂を持ち帰っていただいた。

講座終了後、HISSテクニカルプレゼンテーション会場や研究室展示の一部を見学していただき、大学内で行われている研究の雰囲気を体験していただいた。



<写真9> 電子顕微鏡による観察の様子（高校生体験講座）



<写真10> CAD作業の様子（高校生体験講座）

5. HISS 表彰

HISS では、優秀な論文であると認められ方に贈られる HISS 優秀論文賞，優秀なプレゼンテーションを行いシンポジウム来場者の投票により決定される HISS プレゼンテーション賞，HISS 研究室展示賞があり，閉会式において授賞式を行った（写真 11）。各賞の受賞者人数は，下記の通りである（表 1：受賞者名一覧）。

HISS 最優秀論文賞 1 名，HISS 優秀論文賞 13 名

HISS 最優秀プレゼンテーション賞 1 名，HISS 優秀プレゼンテーション賞 3 名

HISS 研究室展示賞 1 研究室



< 写真 11 > HISS 最優秀論文賞授賞式（閉会式）

表 1 各賞受賞者

賞	対象者	論文題目
HISS 最優秀論文賞	○御手洗 タ子	陽極化成によるシリコンの針状結晶の形成メカニズムに関する研究
	原田 曠嗣	
HISS 優秀論文賞	濱本 明宏	大規模な最大クリーク問題に対する k-opt 局所探索法の性能
	片山 謙吾	

	成久 洋之	
HISS 優秀論文賞	輿石 尚宏	死状態を回避する AHP-強化学習エージェント
	片山 謙吾	
	成久 洋之	
HISS 優秀論文賞	赤江 直洋	ニューラルネットワークを用いた音楽自動ジャンル分類
HISS 優秀論文賞	中根 貴史	第2高調波出力発振器の最適負荷インピーダンスに関する検討
	佐藤 稔	
	藤森 和博	
	野木 茂次	
HISS 優秀論文賞	楠神 元輝	徒歩移動を積極的にとり入れた路線バス利用援助システム
	藤原 好章	
	川村 尚生	
	菅原 一孔	
HISS 優秀論文賞	西尾 拓朗	離散時間系における入力制限を考慮した制御系設計法
	吉田 和信	
	積際 徹	
HISS 優秀論文賞	村上 崇	ユーザ先行・追従型モバイルエージェントシステム構築のためのフレームワーク
	岡山 聖彦	
	横平 徳美	
HISS 優秀論文賞	大隅 祥貴	CDMA 移動通信の上り回線容量とシャドウイングに関する解析的検討
	富里 繁	
	秦 正治	
HISS 優秀論文賞	山谷 陽一	高次制御熱プラズマを用いたカーボンナノテクノロジー
	福政 修	
HISS 優秀論文賞	菊池 健司	最大クリーク問題を解くインスタンス依存ハードウェア解法
	若林 真一	
HISS 優秀論文賞	西川 芳宏	逆リブ型ポリイミド光導波路の作製と導波実験
	丸山 洵平	
	Khalid Ouaaba	
	豊田 啓孝	
	和田 修己	
	古賀 隆治	
HISS 優秀論文賞	石原 学	音声駆動型身体引き込み3Dオブジェクトを用いた動きのインタラクション効果
	渡辺 富夫	

	山本 倫也	
HISS 優秀論文賞	荒川 香織	アドホックネットワークにおける自律分散クラスタリングとモバイルエージェントを用いたサービス発見方式
	Tobias Meier	
	大田 知行	
	角田 良明	

HISS 最優秀プレゼンテーション賞	本田 慎一郎	エネルギー回生回路の効率向上に関する研究
	池田 英広	
HISS 優秀プレゼンテーション賞	石丸 寛之	陽極化成によるシリコンの針状結晶の形成 - 熱酸化法の検討
	松本 晋	
	森 圭子	
	御手洗 タ子	
	原田 曠嗣	
HISS 優秀プレゼンテーション賞	石原 学	音声駆動型身体引き込み 3D オブジェクトを用いた動きのインタラクション効果
	渡辺 富夫	
	山本 倫也	
HISS 優秀プレゼンテーション賞	川田 智章	多視点画像処理によるフォーメーションの3次元計測法
	長谷川 将司	
	田房 友典	

HISS 研究室展示賞	岡山理科大学大学院 工学科 制御システム研究室	移動ロボットの制御
-------------	-------------------------	-----------

6. 添付資料

6.1 プログラム集

6.2 論文集